



文書館 もんじょかん ニュース

山口県文書館
Yamaguchi Prefectural Archives

No.48

CONTENTS

■美術とアーカイブズ

—古文書に見る防長の美術工芸品— …… 1・2

■徳山毛利家文庫絵図公開開始 …… 3・4

■第四回歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議 …… 5

■古文書講座から情報発信を

—古文書実践講座の取り組み— …… 5

■平成25年度の新収諸家文書を紹介します …… 6

■山口県災害記—過去の記録に学ぶ— …… 裏表紙

第9回中国四国地区アーカイブズウィーク

美術と
アーカイブズ

古文書に見る防長の美術工芸品

2014.5.31 SAT — 6.8 SUN

6月2日(月)は閉館



江戸時代、萩藩は領内規模で、いろいろな宝物の調査を行いました。安永三年(一七七四)完成の「防長古器考」はその代表例です。調査対象は藩士・寺社を中心とし、多くは精密な図入りで、一部は彩色を施しています。現在、その多くを見ることができなくなっており、貴重な美術工芸品調査報告書となっています。

「防長古器考」の中で最も多く取り上げられているのが刀剣や甲冑などの武具類ですが、関連して旗も少なからず対象になっています。その中には、現物が当館に保管されている例があります。写真1は、「古制旗」(山内家文書)と称されるもので、上部に三社と二天が書かれ、下部は損傷が著しいが、山内家の家紋(「二」)が描かれています。

図入りと言えば、地誌として名高い「防長風土注進案」(一九世紀半ば成立)にも少なからず見ることがができます。正八幡宮(山口市)の能面二面(山口県指定有形文化財、写真2)や赤穂浪士の頭巾などです。

毛

利博物館に伝わる国宝「紙本墨画淡彩四季山水図」、すなわち雪舟(一四二〇～一五〇六)の代表作「山水長巻」(全長一六メートル)には、二つの模写本が存在します。ひとつは、国宝の附指定を受けている萩藩御用絵師雲谷等顔(五四七～一六一八)筆と伝えられるもの。もうひとつが、幕府御用絵師狩野古信(二六九六～一七三二)の筆によるもので、享保十年(一七二五)の奥書があります。この模写の経緯を子細に記録した文書(写真3)によれば、萩城の御宝蔵に収蔵されていたこの長巻を、江戸藩邸へ運び入れたのち、二三日間にわたり、毎日古信の自宅に移して写し取ったなどと記されています。

寛

政の改革で名高い老中松平越中守定信(二七五八～一八一九)が天下に触れて名筆・尊筆の古額や什物の古書類を書き上げさせたりする中で、赤間神宮(当時は阿弥陀寺)に伝わる「平家物語」(重要文化財)の写本を所望し、進呈させたという話もあります。

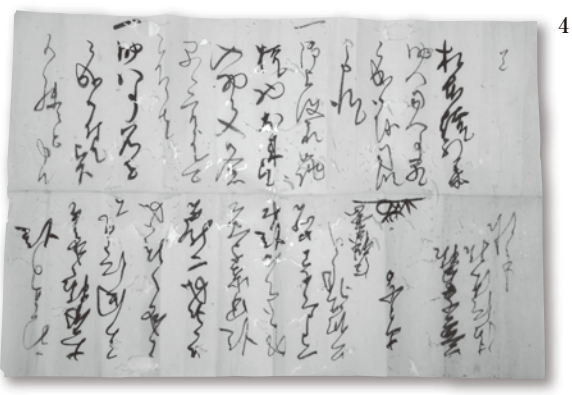
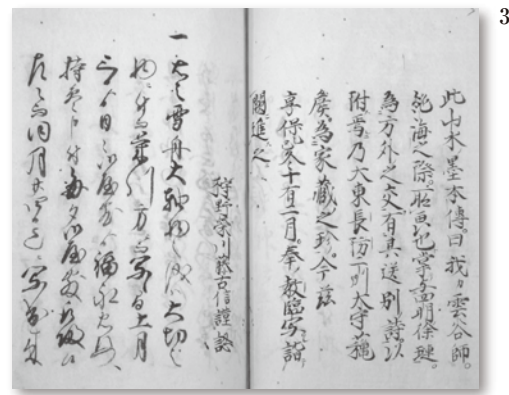
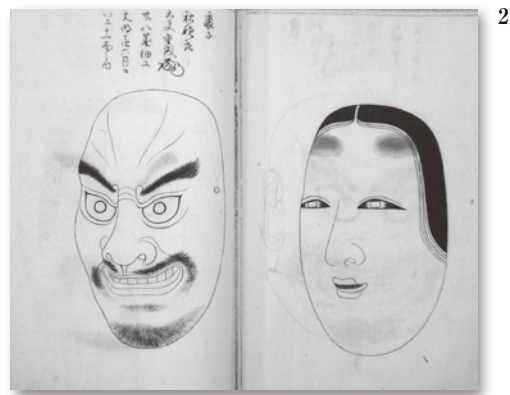
萩

焼(松本焼)にまつわる、寛永元年(一六二四)と考えられる書状があります(写真4)。そこには、焼物師が異国人であることが明記されており、焼物師ふたりの名付けに、毛利輝元(宗瑞)とその嫡男で初代萩藩主毛利秀就が直接的に、また輝元の叔父の長府藩主毛利秀元もこれに関与したことが記されています。坂高麗左衛門誕生の経緯を語る貴重な文書で、これは、近年公開した「毛利家文庫・遠用物」の中の一通です。

謎

の美術品ながら県指定有形文化財(絵画)に指定されているのが、多聞院(下松市)の「星宿図(寺伝須弥山図)」二基です。類例が全くない異色のもので、高さ約五〇センチメートルの五段組立造り円筒形に、星宿に関わる図像が描かれています(がはつきりしません)。用途も不明ですが、凶作悪年が連続する延享三年(一七四六)寅年、五穀豊穡を祈念して御開帳を行ったところが満作になり、このち、毎寅年に御開帳が行われるようになったという記録があります。なお、本図はもと松尾八幡宮(下松市)に伝来していたもので、神仏分離によって、社坊の多聞院に移されました。

当館は、これらのアーカイブズだけではなく、絵画など美術品そのものも所蔵しています。例えば長府藩御用絵師笹山養意の「四季耕作図」八曲一双や「鞍馬蓋寺縁起絵巻(写本)」二帖(写真5)、「大庭学僊自画像」一幅などもあり、一挙公開します。

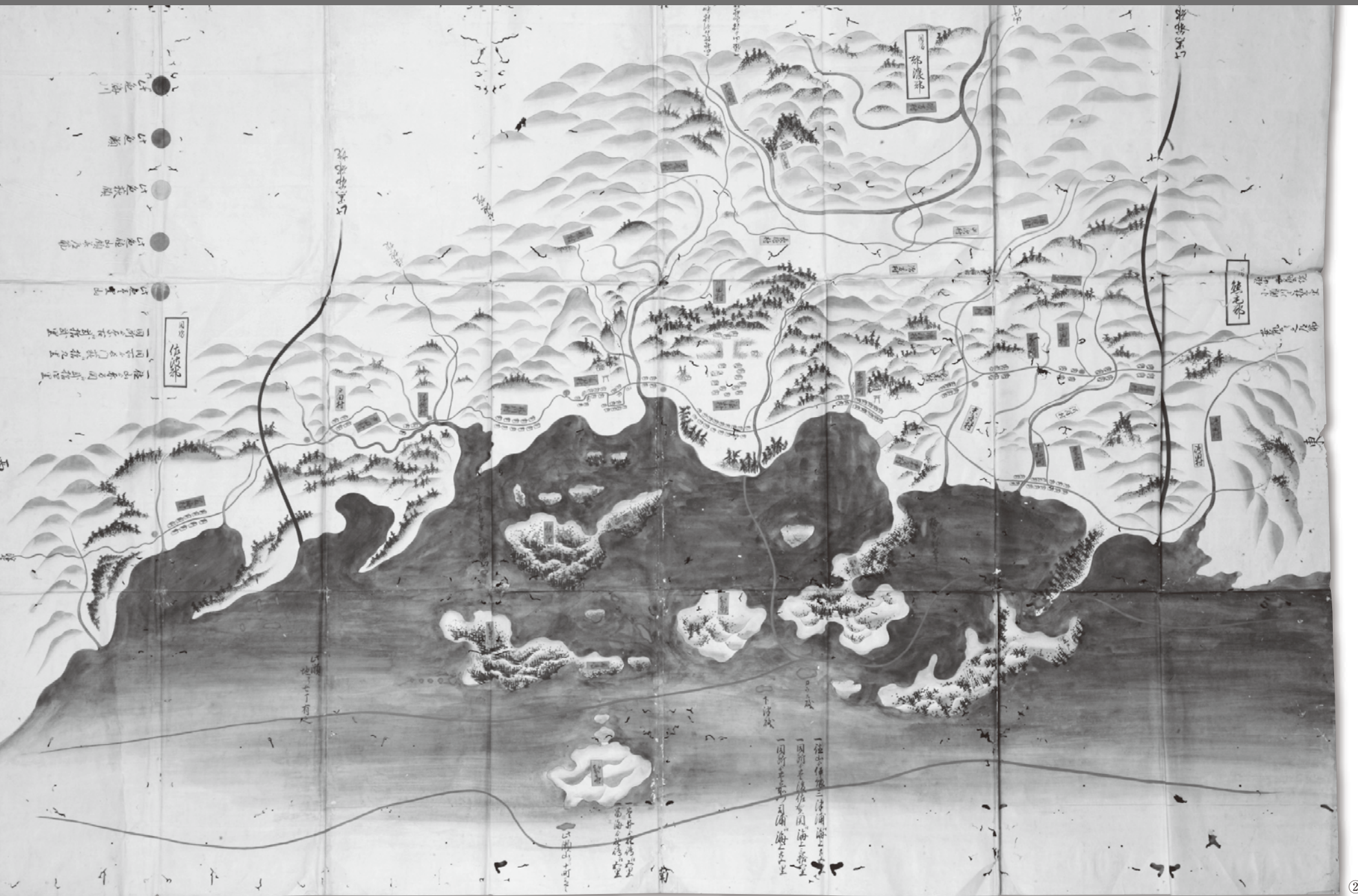


徳山毛利家文庫

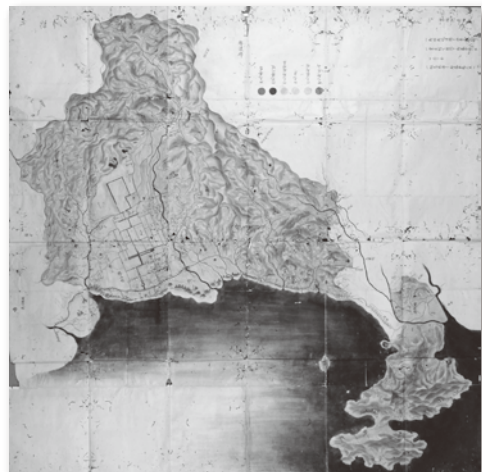
絵図

開始
公開

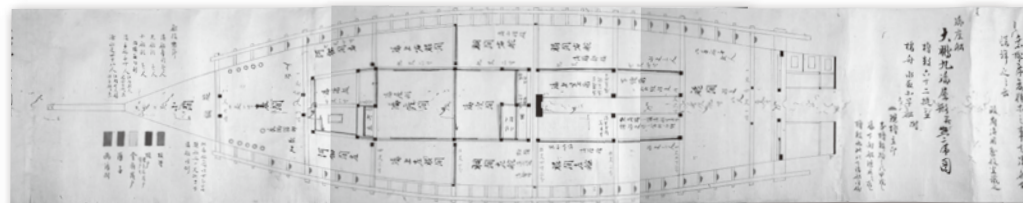
徳山藩は、毛利輝元の二男就隆を藩祖とする、萩藩の支藩です。藩庁を徳山(現周南市)に置き、領地は都濃郡と佐波郡の一部(現周南市下松市防府市)および奈古・大井(現阿武町・萩市)で、公称高は四万石でした。この徳山藩および毛利子爵家の文書記録類が「徳山毛利家文庫」(既公開分一四、六五八点)です。「徳山毛利家文庫」には、未公開の文書が残されています。当館ではこれらの整理を鋭意進め、平成十九年度に徳川将軍の発給した御内書など三三〇点を公開しました。今回、「絵図」の整理を終え、保存状態の良好な二八八件三四点を公開することとしました。内容は、藩領図をはじめ道中図・山絵図・屋敷差図・船舶図など多種多様で、いまだ知られていなかった徳山藩領に関する歴史・地理情報が数多く含まれています。これらの絵図の公開によって、地域の歴史研究がさらに進展することが期待されます。



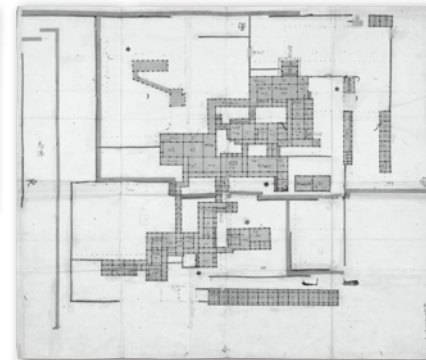
②



⑤



④



③



①

- ①行程記(写)(徳山毛利家文庫・絵図101) ②徳山封土地境図(同19)
③徳山御館之図(同69) ④西国海路御船数并配席図(部分)(文化元年、同164)
⑤御領内大絵図 徳山・栗屋・相島(享保6年、朝倉等収・同甚七筆、同7)

■山県家文書

山県家は、江戸時代、萩藩一門阿川毛利家の最上級の資格である家老(三家)の一つであり、家中において加判役などを務めた家です。江戸時代から明治初期において山県家が阿川毛利家家臣として活動したことに関わって作成、授受された文書が構成されています。阿川毛利家家中に関する文書が

■氏本家文書

氏本家は、屋号を「代々屋^{だんだいや}」といい、荒神勧請時に祝島三浦に居住していた三軒の一つと伝えられています。文書の内容は、氏本家が大歳神社の氏子惣代として江戸時代以来神舞の世話役を務めてきたことに関わって作成・授受されたものがほとんどです。これらは、祝島神舞関係史料の中で最大の分量を誇っており、実際に神楽を舞う豊後別宮社側社人の役割を記した明治十二年以降の神楽式次第がほとんど残っていることや、神舞執行のための物品購入、費用調達、人夫役割割など具体的な記録が多いことが特色です。

今年度、一六家・六、四二三三点の諸家文書の閲覧を開始しました。その中から三つの文書群を紹介いたします。

平成二十五年度の
新収諸家文書を紹介します！



古文書講座から
情報発信を
—古文書実践講座の取り組み—

当館では、三つの古文書講座を実施しています。古文書解説の基礎を学ぶ「入門講座」、より深い解説知識を学ぶ「専修講座」、そして平成二十三年度から新たにスタートした「実践講座」です。

文書館員が講師となり講義形式で行う入門・専修講座に対し、実践講座は館員がサポート役となり、受講生主体で解説を進めるものです。釈文の作成、データ入力も受講生が行います。

二十三年度は萩藩主の御国廻り(領内巡見)の記録、二十四年度は江戸時代の山口町人による東北への旅日記を解説しました。二十五年度は、周防・長門国の孝行人の記録、城下町萩の地誌、九州旅日記、の三種類をテキストに選びました。



一年間の講座
終了後、受講生
が解説、データ入
力した釈文を
ベースに、文書館
で簡単な解説を
加えた史料集を
P D F形式で作



成し、当館ウェブサイトで公開しています。テキスト画像のデータの公開も一部開始しています。

古文書講座は、みなさんに古文書学習の場を提供することはもちろん、講座を通じ、歴史的な文書記録の保存・公開を進める文書館の仕事を知ってもらう、という役割をもっています。それとともに、受講生のみなさんの協力を得て、文書館が所蔵する歴史的な文書記録の知られざる魅力を紹介し、新たな歴史的情報を発信する場として、業務の中に積極的に位置づけることができると考えています。

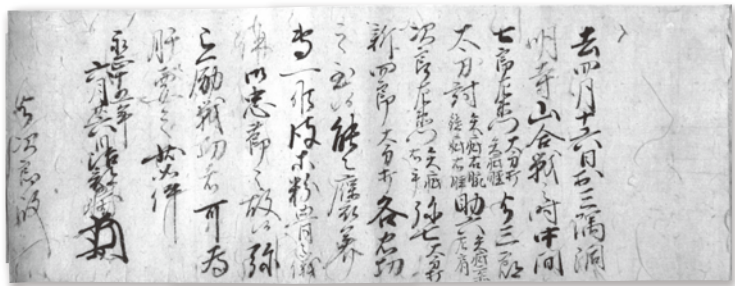
多くのみなさんの参加をお待ちしています。

■益田高友家文書

多くあり、阿川毛利家文書が散逸している現在、同家のことを知りうる貴重な文書群です。明治三十七年の山口県の通達類が「山口県諸沙汰記」としてまとめられている点も注目されます。

益田高友家は、室町・戦国時代に西石見最大の国人領主であった益田家の分家で、応仁・文明の乱で活躍した益田貞兼の四男兼勝に始まります。江戸時代に、萩藩永代家老の益田家から周防国吉敷郡問田を本拠とする家(問田益田家)が分家すると、その家老となりました。明治時代には、益田周作が御堀村戸長や矢田村戸長、大内村村長等を歴任していま

す。文書の内容は、戦国時代に大内氏や尼子氏から受け取った書状や益田本家から与えられた感状のほか、由緒書、益田家をはじめとする諸家の系図、武術秘伝書等です。中世文書一六点の内九点は新出の文書であり、肥前の松浦氏との日本海海運を通じた交流を示す文書等、注目すべき内容を含んでいます。



益田宗兼感状 益田高友家文書No2 (10の5)

■平成25年度の新収諸家文書

No.	文 書 名	点 数	主な文書の年代	文書群の特徴(関連地域、個人・家の歴史、就任役職等)
1	氏本家文書	369	近世～現代	上関町祝島／神舞
2	兼重家文書	4	近世～近代	周南市／第二奇兵隊士
3	御所河内大堤水子中文書	58	近世～近代	山口市阿東／区有／水利
4	櫻井家文書	10	近世	萩藩国司家臣
5	田鍋家文書	26	近世～近代	奇兵隊士／陸軍軍人
6	津田家文書	82	近代	村長／鉄道役員
7	平野家文書	113	近代～現代	陸軍軍人／山口県警察官
8	藤津家文書(追加)	305	近世～現代	山口市小郡／材木業
9	古畑家文書(追加)	155	近世～近代	コレクション／阿川毛利家／鹿野岩崎家
10	堀江静子家文書	1,006	近世～現代	岩国市錦町／村会議員／商家
11	益田高友家文書	32	中世～近世	石見国人／萩藩問田益田家臣
12	溝部家文書	48	近代～現代	陸軍軍人／教員／図書館書記
13	元森家文書	26	近世～近代	奇兵隊士
14	山県家文書(追加)	208	近世～近代	下関市豊北／萩藩阿川毛利家臣
15	吉武家文書(追加)	77	近代	陸軍軍人
16	和田敏英収集史料	3,904	近代～現代	教員／コレクション

第四回
歴史的公文書等の
保存活用のための
連絡会議

当館では、歴史的公文書や地域に残された文書記録の保存と活用を目指し、市町の情報交換と協力の場として「歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議」を開催しています。

第四回の今年度は、十一月一日に、初めて県庁の共用会議室を使って開催しました。

会議の第一部では、平成二十四年に開館した福岡共同公文書館の小原館長から、「福岡共同公文書館の開館とその取組について」と題して、D V Dの上映を含めて御紹介いただきました。

第二部は県内各地域の文書記録類保存に関する情報交換として、山崎専門研究員が当館の文書整理実務について紹介した後、市町から出された協議題にそって意見交換を行いました。

市町からは、市町村合併による資料の分散状況や、電子決裁による公文書の取扱いの煩雑さなどの意見が出されました。

今後も、市町とさらに緊密に協力しながら、ニーズに添った充実した会議を目指していきます。

過 去の災害関係史料に着目し、これらを防災に役立てようという様々な取り組みが、東日本大震災後、全国各地で行われています。当館においても、平成25年6月1日から9日まで、第8回中国四国地区アーカイブズウィークの一環として「山口県災害記～過去の記録に学ぶ～」を開催しました。

閲覧室を改装して行ったアーカイブズ展示では、山口県に起こった災害を、地震・台風・高潮、水害・土砂災害の3つに分け、館蔵の関係史料を展示しました。中でも1854年に起こった安政大地震の記録「大地震報告書」（毛利家文庫9諸省617）は、県内各地の被害状況を詳細に伝えるものとして注目を集めました。

また、恒例となった書庫見学ツアー、歴史探究講座、ギャラリートークなど、いずれも盛況で、期間中、延べ1,100名を超える参加者があり、テレビ・新聞にも大きくとりあげられました。文書館員によるアーカイブズ歴史小話は、毎回立ち見が出る盛況ぶりでした。

この企画を通して、過去の災害に関する正しい知識をもっていただくとともに、これら災害関係史料を含む文書・記録保存の重要性を感じていただけたと思います。

山口県 Records on Past Disasters in Yamaguchi 災害記



①	②
③	④
⑤	⑥
⑦	⑧

- ①⑤アーカイブズ展示 ②ギャラリートーク
③歴史探究講座 ④ポスター ⑥書庫見学ツアー
⑦⑧アーカイブズ歴史小話

Records on Past Disasters in Yamaguchi 過去の記録に学ぶ



山口県文書館

〒753-0083 山口県山口市後河原150-1
TEL083-924-2116 FAX083-924-2117 <http://ymonjo.ysn21.jp/>

利用時間

【開館時間】 火曜日～日曜日 9:00～17:00

【閉館日】 月曜日、祝日、月末整理日、年末年始、資料点検期間

※文書館は山口県立山口図書館と同じ建物内にあります。

閲覧室へは2階へお上がりください。

※毎月の開・閉館日は、当館webサイトの閲覧室カレンダーをご覧ください。